

阪神

配達お問い合わせ
購読のお申し込み

0120-33-0843
(7:00~21:00)

阪神支局

〒662-0917

西宮市与古道町1-1

☎ 0798(33)5151

fax 0798(35)2070

購読・配達のご用は

西 宮 0798(23)3516

(10:00~17:00)

＝日・祝除く

広告(土日祝除く)

神 戸 078(321)2424

折り込み広告は

大 阪 06(6226)1290

神 戸 078(382)3101

情報こちらへ

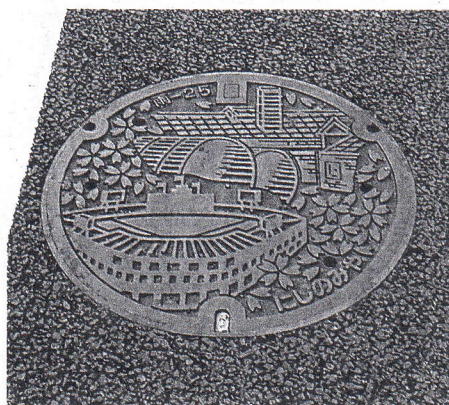
身近なニュース
情報や話題など
題字下の電話・
ファクスや
メールでどうぞ
kobe
@asahi.com

明石のマンホール 西宮になぜ

西宮市内に突然現れた明石市のマンホールのふた＝西宮市学文殿町1丁目



近くには西宮市が本来使用するマンホールのふたもあった。阪神甲子園球場などがあしらわれている＝西宮市里中町3丁目



西宮市の住宅街で先月、明石市のマンホールのふたが出現した。西宮市から西に約40キロ離れたまちのふたが、なぜ？

西宮市上鳴尾町の竹内俊輔さん(74)が1月中旬、朝の散歩中に気づき、朝日新聞阪神支局に情報を提供した。「なぜ明石市？と驚いた。謎を解明してほしい」

今日1日、西宮市学文殿町1丁目の旧国道(市道)と本郷学文筋(同)の交差点付近の歩道を歩くと、確かに明石市のマンホールのふたを3枚確

先月中旬、散歩で発見

認できた。直径約60センチ。「しごせん」のまち「あかし」と刻まれ、明石市の天文学館があらわれていた。

西宮市道路建設課によると、旧国道は現在、9メートルの車道を7メートルに縮めて歩道を拡張する工事中。付近にはもともと直径約90センチのマンホールがあり、より扱いやすい60センチのものに変更することになったが、マンホールのふた製造会社の在庫に西宮市のふたがなかった。そのため、たまたま在庫があった明石市のものを代用したのだという。

在庫なく「限定使用」

4日ごろ、新たに届いた正規のふたと取り換えた。同課の担当者は「市民を混乱させてしまったこともあり、速やかに交換しました」。約1カ月間の「限定使用」だった。

明石市下水道整備課の担当者は取材に「市が購入する前のふたであり、仮の使用であれば問題ないが、本来は明石市民が市の下水道行政に親しんでもらうために作ったもので……」。西宮市からの説明はないといい、やや困惑気味だった。

(真常法彦)